

# マザーハウス たより

あなたは愛されるため、また、愛するために生まれてきたのです。あなたが必要であり、大切です。マザーハウスはあなたの家族です。

移送・出所される方は、必ずご一報ください。

表紙：風つ子さん「立ち止まる勇氣」

2018

9 月号

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 2 理事長挨拶       | 19 Lovely DAYs |
| 5 社会の声        | 20 塀の外のたより     |
| 10 特別コーナー①    | 21 健康相談窓口      |
| 11 育児日記       | 22 お知らせ        |
| 12 特別コーナー②    | 23 つぶやき！       |
| 12 ささきみつおコーナー | 23 行事予定        |
| 13 塀の中のたより    |                |

## 理事長挨拶

皆さま、過ぎしやすい季節となりましたが、いかがが過ぎでしょうか。

皆さんにお知らせがあります。十月十三日（土曜日）午後二時より、東京の四ツ谷にある聖イグナチオ教会にて、「受刑者のためのミサ」を行います。そこで、社会の皆さんに、共に祈っていただきたいのです。受刑者の皆さんには、この日より九月号と一緒に、ミサの式次第を同封しています。当日、教会に来ることができなくても、ともに祈ることができます。どうか皆さん、ともに祈ってください。

皆さんは一人ではなく、マザーハウスは家族です。家族とは、お互いを大切に思い、大事にし、お互いを必要とするものだと思います。一方通行の気持ちではないと思うのです。そのことを絶対に忘

れないでいただきたいです。

自分の欲望をかなえてくれるのが家族なのではありません。だから、聖書の中に、「言葉や口先ではなく、行いをもって互いに愛し合いなさい」（第一ヨハネ三章十八節）とあります。

### 「愛し合う」と

私は、神の審判の基準は、私たちがこの世でキリストに命じられたような生き方をしたかどうかだと思います。キリストが命じられた生き方とは、「愛し合うて生きる」ことです。キリストは、最後の晩餐の席で、弟子たちに遺言を残されました。「私があなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これが私の掟である。友のために自分の命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」（ヨハネ十五章十二〜十三節）。

「愛し合う」とは、究極的には、「友のために自分の命を捨てることだ」とキリストは言われました。ヨハネは、手紙の中でそれを次のように言い換えています。

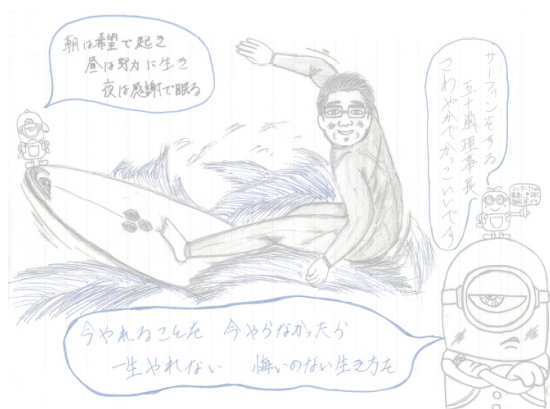
「イエスは、私たちのために、命を捨ててくださいました。そのことによって、私たちは愛を知りました。だから、私たちも兄弟のために命を捨てるべきです」（第一ヨハネ三章十六節）。「あなたは兄弟のために命を捨てる覚悟があるか、それが愛だ」という厳しい問いかけが、「ここなされています。」「兄弟のために命を捨てる」「そんなことはできないと私たちは思うかもしれないと私たちは思える。」「あなたたちは神の子とされている（二章二十九節）ではないか」と励ましています。

では、具体的に、「愛し合う」とはどのようなことでしょうか。

愛といえば、私たちは男女の愛Ⅱラブを想定しますが、人間の愛がいかにもろいかは、創世記の「アダムとエバの物語」を見れば明らかです。人（アダム）を創造された神は、ふさわしい助け手としてエバを造られ、アダムはエバを見て語ります。「これこそ私の骨の骨、私の肉の肉」（創世記二章二三節）。人は妻を自分の分身として、いとおしみ、愛しました。しかし、そのエバが先に罪を犯し、アダムも黙って共にその罪を犯したために神から責められた時、アダムは言います。「私と一緒にしてくださったあの女が、木から取ってくれたので、私は食べたので

す」（三章十二節）。「私の骨の骨、肉の肉」と呼んだ、愛する存在が、「ここでは「あの女」になつていきます。人が人を愛するとはこのようなものだ」と聖書は語ります。

人間の愛は、「ギブアンドテイク」の愛であり、自分にとって都合の良い時は愛するが、都合が悪くなれば平気でこれを捨ててしまいます。一方、ヨハネが求めている愛は、「妻のために死ぬ夫」、「夫のために死ぬ妻」です。人間の愛を持つ私たちにはできないことです。しかしヨハネは、神の愛に触れて変えられた人間は、そのような人間の本性を越えて、神の愛で人を愛することができ、真の意味で「愛し合う」ことができると証言します。



作者不詳



「ヨハネは言います。「神から生まれた人は皆、罪を犯しません。神の種がこの人の内にいつもあるからです。この人は神から生まれたので、罪を犯すことができません」(第一ヨハネ三章九節)。

「」で、「キリスト者は罪を犯さない」と言っているではありません。「自分に罪がないと言っなら、自らを欺いており、真理は私たちの内にありません」(一章八節)とヨハネは言っています。キリスト者にも罪があり、罪を犯すのです。では何故、「神から生まれた人は皆、罪を犯しません」とヨハネは言うのでしょうか。私たちは信仰が与えられても、相変わらず罪の存在です。とても神の子とは言えません。にもかかわらず、私たちは神の子と呼ばれ、神の子としてふさわしく生きることが求められています。それは、私たちの中に「神の種」である聖霊が与えられることによって、自分の中にある罪と戦うことができるです。

さらにヨハネは語ります。「神の子たちと悪魔の子たちの区別は明らかです。正しい生活をしていない者は皆、神に属していません。自分の兄弟を愛さない者も同様です」(三章十節)。正しさの基準はただ一つ、「互いに愛し合っているか」です。「互いに愛し合うこと、これがあなたがたの初めから聞いている教えだからです」

(三章十一節)。

そしてヨハネは決定的な言葉を語ります。「イエスは、私たちのために、命を捨ててくださいました。そのことによって、私たちは愛を知りました。だから、私たちも兄弟のために命を捨てるべきです」(三章十六節)。ヨハネにとって「愛し合う」とは、「相手のために命を捨てる」ことであり、その根拠は、「イエスが私たちのために命を捨ててくださった」という贖罪愛にあります。

私は、受刑中にキリストの愛と赦しを体験し、真の愛に触れました。だから、反省するのではなく、悔い改めることが一番大切であると思うのです。

「受刑者のためのミサ」は、受刑者一人ひとりが回復するための祈りです。そして、社会にいる人たちが愛を实践するためのミサです。キリストは愛です。聖書の言葉は愛です。だから私を変え、愛に生きることの楽しさ、すばらしさを教えてくださいました。

受刑者の皆さんには、当日使用する式次第をお送りいたします。司祭が唱える部分も全て載っている、とても分かりやすいものです。それを見ながらぜひ祈ってください。自分のいるところ、そこにキリストがいることを感じてください。

私は獄中で、いつもキリストと触れていると感じていました。それは、高齢の受刑者を介護しているときです。今でも思い出すと涙が出ます。当時の私に愛を教えてくださいましたのは、この高齢受刑者です。

皆さんも、ミサ式次第の裏表紙にある、「愛を教えてください」の祈りを祈っていただければ幸いです。マザー・テレサの祈りです。全く愛のなかつたこの私を変えてくださったキリストの愛、皆さんにもぜひ、このキリストの愛に触れていただきたいのです。



！・Nさん

## 反省ありきの裁判では意味がない

話は変わりますが、八月一日に東京地方裁判所で情状証人として証言をしてきました。全く納得のいかない裁判でした。正直、茶番であり、反省ありきの裁判(反省を強制させる裁判)に何の意味があるのかと思いました。被告人の人となりを見えていないのです。

その被告人は、七十二歳のお爺ちゃん、賽銭箱から二十円を盗んで捕まりました。初犯ではなく、前科も多数ある方でした。でも、脳梗塞を患い、言語障害と、足に障害がありました。弁護士、検察官、判事の質問に、すべて迎合してしまう状況でした。簡単に言う、被告人が内容を理解していないのにも関わらず、「反省しています」という言葉だけを求めているとしか思えない裁判でした。本人の腹の底からの「ごめんなさい」ではなく、ただその言葉を強制するだけの、典型的な反省ありきの裁判でした。八日に判決があり、執行猶予をもらいましたが、「ここからが大変でした。お爺ちゃんは生活保護を受けていましたが、

何の説明もなしに、いきなり保護を廃止されたのです。そのことで私が福祉課の課長に電話をしたら、「逮捕・起訴された時点で保護は廃止です。文書で『廃止しました』と通知さえすればいいのです」と言われました。

この区役所は、区長の奥様が保護司（犯罪や非行をした人の立ち直りを、地域で支える民間ボランティア）であり、職員の中にも八名の保護司がいます。それなのに、緊急保護も何もしないし、地域定着につなげることもしないのです。お爺ちゃんはお金が全くなく、「腹減った」と叫んでいました。仕方がないので、私の妻にお弁当を作ってもらい、お爺ちゃんに食べてもらいました。

目の前のこのお爺ちゃんをサポートしないで、何が再犯防止推進法、司法福祉、更生保護と言えるのでしょうか？口先だけで実際には何もしていないと感じます。そんなやる気のない状態では、再犯防止などできません。

「このお爺ちゃんは、マザーハウスとも関わっている役所にて生活保護を受け、マザーハウスのスタッフと共同生活を始めました。そのスタッフも本気で回復を目指しています。だからこそ姿で現し、愛を実践するのだと思います。」

## 「マリア・カフェ」 オープンについて



元受刑者の社会復帰を支援 カフェがオープン 東京 墨田区

2018年9月1日 16時44分

九月一日に、みんなの居場所として「マリア・カフェ」がオープンしました。元々、倉庫として使われていた部屋を、当事者たちが自分たちで改装しました。ここでは、ミーティングをしたり、研究会をしたり、面談したり、コーヒーを飲んだりする予定です。これからが楽しみです。オープン当日は、NHKが取材に来てくださいました。一分程度の映像ですが、その日の夕方にニュースで流してくださいました。内容を紹介させていただきます。

☆☆☆

元受刑者が地域住民とふれあうことができる「居場所」を作り、社会復帰を支援しようというカフェが、東京墨田区にオープンしました。

これは、元受刑者の社会復帰を支援するNPO法人が一日、東京墨田区にオープンさせたもので、六階建てのビルの一階にあった会社の倉庫を、寄付を募って改修しました。

このカフェでは、元受刑者およそ十人が働くことになっていて、初日の一日は五人が出て、ボランティアの学生と一緒に準備を進め、昼前から営業を始めました。

カフェには地元の住民らが訪れ、元受刑者らは注文を聞いてコーヒーなどを出したり、客との会話を楽しんだりしていました。訪れた四十一歳のアメリカ人男性は、「刑務所を出た人と聞くと緊張しますが、会ってみるとみんな優しいです。温かい雰囲気のある場所なので応援していきたいです」と話していました。

法務省の「犯罪白書」によりますと、刑法上の犯罪で検挙された人の再犯率は一昨年四十八・七%と、これまでに最も高くなっています。NPO法人によりますと、刑務所を出たあとに社

会的に孤立するケースが多いため、再び犯罪を犯すという悪循環が起きているということです。

自身も服役経験のあるNPO法人「マザーハウス」の五十嵐弘志理事長は、「元受刑者が社会で生きていくためには、地域の皆さんとのふれあいはとても大事なので、気軽に立ち寄ってほしい」と話していました。

☆☆☆

また、八月二十九日には毎日新聞にも載せていただいたので、その内容もご紹介します。

☆☆☆

【出所者の居場所作り「本気の更生支援」】

出所者らの更生、社会復帰を支援するNPO法人「マザーハウス」（東京都墨田区）が、当事者の居場所作りを進めている。事務所の隣の倉庫を改装したコミュニティカフェを九月一日にオープンさせ、加害者家族の相談も受けつける。元受刑者で同法人の五十嵐弘志理事長（五十四）は「当事者の立ち直りと、地域とのつながりを後押ししたい」と抱負を語る。

五十嵐さんは詐欺などで服役した前科三犯で、二十年近く刑務所で過ごした。家族から見捨てられ、自殺を考えたこともあったが、手紙を交わした神父らが心の支えになった。「赤の他人の自分に貴重な時間を割いてくれている」。生まれて初めて大事にされると感じた。聖書を読み返すうち、犯した罪の重さを悟ったという。

二〇一一年十二月に出所。受刑者とボランティアが文通する活動を始め、十二年から出所者の生活支援にも乗り出した。輸入コーヒーの販売や寄付を元手にNPOを運営し、これまでに約五十人が職を見つけて自立した。

そうした中、社会的に孤立しがちな出所者がスタッフとして働いたり、集えたりする場を作ろうとカフェ開設を決めた。インターネットで多くの人から小口の寄付を募る「クラウドファンディング」を始め、スタッフと準備を進めている。

七月に関東地方の刑務所を満期出所した男性（四十八）もマザーハウスを頼った一人だ。覚醒剤の使用を繰り返して、服役は六回目だった。受刑中の二年間、文通を続け、五十嵐さんが直接面会して住まいの確保や生活保護の申請をサポートした。男性は仕事探しの

傍ら、スタッフとして働く。「社会復帰して間もないが、自分ができることを精いっぱいやりたい」と話す。

ただ、活動が全て順調というわけではない。マザーハウスが文通した元受刑者三百五十人中、出所後の支援に結びついたのは五十人程度。「変わるかどうかは本人次第だが、本気で更生したい人には支援が必要」と五十嵐さんは話すが、再犯してしまうケースがあるのも現実だ。

それに加え、出所者に対する世間の目は依然厳しい。「被害者へのしよく罪の気持ちは消えませんが、刑期を終えた出所者は永遠に犯罪者なのではうか」。五十嵐さんは毎月、大学や教会で講演し、自身の経験を踏まえ、当事者による立ち直り支援への理解を求めている。

カフェの運営にはボランティアの学生も参加する予定で、地域との交流も目指している。カフェ開設の呼びかけ人の一人で、刑事政策が専門の丸山泰弘立正大学准教授は、「出所後の住まいや働く場の有無が再犯に影響するという研究もある。『そこに居場所がある』ということが、社会生活を送る上で重要」と話している。

## 社会の声

### 対談（文字起こし）

被害者×加害者家族×加害者

☆今年の三月二十四日に行われた、被害者支援（片山徒有さん）、加害者家族支援（阿部恭子さん）、加害者の更生支援（五十嵐弘志）を行う三者による対談の内容をご紹介します（掲載の都合上、一部編集しております）。

（先月号のつづき…）



一兵さん

当事者ではない人々が  
持つべき意識とは

片山さん

私は色んなところでこういうお話をさせていたく時に、二つの視点ではなく三つの視点が必要なのではないかという話をするようにしています。

被害経験がある人あるいは被害者というくくりのグループの人たち…直接被害に遭った人、その家族、すでに世の中にはいない人も被害者のグループに入るようになります。一方で、被害者を害してしまった人、一般的には加害者という風に呼ばれる人たちのグループもあります。

忘れてはならないのは、三つ目の地域社会というグループなんですね。地域社会には、両方の人たちが属するわけです。ある部分では被害者性を帯びている人がいるし、そうではない人もいます。つまり、社会で例えば、事件のニュースを見ながら批判を浴びせかけた人は、むしろ、どちらかというと私は加害者側につくのではないかなと思う事もあります。例えば



色んな人を傷つけたという意味では、加害者側につくのではないかなと思います。

被害者というのは、被害を受けた人です。ですから、どんな人でも、被害を受けたら自分は被害者であると捉えることができると思います。中には、事件を起こして被害者を出してしまった人も、実は被害者だったというケースもいっぱいあります。ですから、規則的に被害者や加害者と分けたり、「犯罪者」と「犯罪者でない人」という風に分けたりしてしまうと問題なのであつて、様々な人がお互いのことを分かり合える、尊重し合えることがとても大事なのではないかなと私はいつも考えています。



作者不詳

## 阿部さん

先ほどもちよつとお話しさせていただいたんですけど、加害者家族だと、いわゆるどんな犯罪かによつて状況が異なる、という部分もたくさんあつて。あと、家族といえ、加害をした人との関係ですよね、続柄というか。それによつても悩み方が全部違うんですね。

例えば、未成年が犯罪を犯した保護者の方の中には、法的責任を負っている方もいらつしやいます。そういう、法的な責任を果たさなきゃいけないという課題がある方と、あとは、そうではないけれども、例えば犯罪を犯した人のご兄弟とかは、むしろ全くその犯罪にも関わっていないし、ある意味被害者のような立場なんですけれども、でもとても罪悪感を持つている、という方もいらつしやつて。

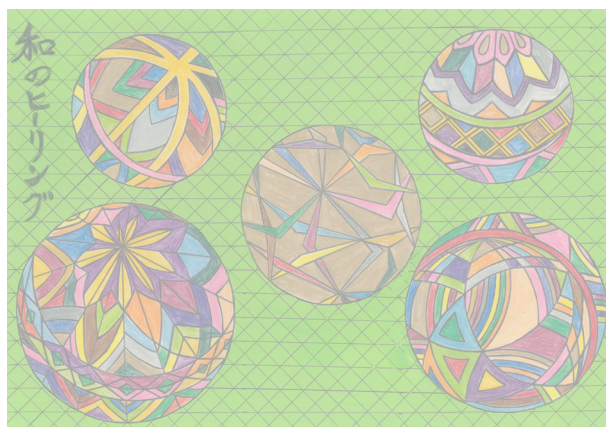
本当にお一人お一人が、悩まれ方が違うんですが、加害者家族という人々は、加害者ではなくて、仮に加害者のようなことをした人であっても、サポートを受けられるんだよ、つていうことを伝えていきたい、とずつと思っていました。なので、この加害者家族支援という活動を通して、「当然、加害者の家族はサポートを受けていい」という考え方を世の中で普通にしたい。

今でも、「いや、加害者側の人間なんだから支援を受ける価値もありません」とか、「耐えなきゃいけないです」「みたいな、そうやって耐えてきた方々もたくさんいらつしやるんですけど、決してそんなことはない。困るんですよ、加害者側でも。被害者が困るっていうことはすごく想像しやすいんですけども、加害の方も…。

皆さんもちよつとしたことから考えて頂きたいんですね。例えば、非常に些細なことなんだけど、ネットに書いたことがトラブルになったとか、そういう身近で起きる加害・被害の場面でも、「何て謝ったらいいのか分からない」と悩んだりすることがあると思うんですね。そうした時に、加害の方は、なかなか相談がづらい。

加害者になると、責められる立場というか、「助けを求める身分じゃない」みたいな、何かそういうイメージがあるんですけども、加害者側も、困つて悩んでいる。困つた人に対するアドバイスや支援がきちんと必要で、むしろそういうアドバイスがあるからこそ、ちゃんと謝罪ができた、被害者に対してもちゃんと向き合えたりできる。はつきり言つて、逃げたいですよ、そういう支えがなかったら。逃げている人も実際いっぱいいると

思うんですよ。「何て謝ったらいいの分からない」と。逃げて向き合っていない。向き合えないわけじゃないんですけども、どう向き合ったらいいの分からないっていうことは、すごく、事件を起こしたご本人からよく聞く話なんです。なので、そういうサポートが本当は必要じゃないか、加害と被害の両輪のサポートが必要じゃないか、ということはずごく思っています。



河童さん

なので、みんなが当事者意識を持つて  
いる世の中になつたらいいんじゃないかと  
思うんですね。やっぱり、なぜ当事者  
意識を持ちにくいかと言うと、絶対的に  
犯罪が少ないですから、日本は。犯罪が  
今減つて、これはとても良いことですな。  
ですが、犯罪が起きてしまった後の差別  
がひどいんですね、その分だけ。周りに  
そういう人がいないというだけに。何か、  
とんでもないことをした人だという、そ  
の家族も同罪じゃないかという。そうい  
う風に思い込がちなんじゃないかなと思  
います。

## 五十嵐さん

犯罪を犯す人間は、僕は、変わつてい  
けると思うんですね。

僕がよく、当事者に対してもそうです  
けれども、学生たちに、なんで犯罪を  
犯してしまうのかっていう話の中で言う  
のは、金を追いかける人間と、女を追  
かける人間と、「僕は絶対犯罪をしませ  
ん」つて言う人間が一番危ないですよ  
つて言うんです。すると、「何で『絶対犯  
罪をしません』と言う人が危ないんです  
か」と聞かれます。

法律に精通している人でさえ犯罪を犯  
してしまうんです。

例えば、村木厚子さんのえん罪事件で  
は、検事が調書を改ざんしたんですね。  
検事さんですから、司法のプロです。ど  
ういう犯罪になるかつて、分かりますよ  
ね。別の事件では、裁判官が酔っ払つて、  
女性の体を触ってしまった。裁判官は、  
法律のプロですよ。そういう人でも犯罪  
を犯してしまうんです。国会議員だつて  
犯罪を犯してしまうんですよ。どうい  
う人が犯罪を犯すかつていうのは分からな  
いわけです。それなのに、「僕は絶対し  
ない」と他人事のように考えるのが危な  
いんです。

一番大事なのは、同じ人だつていうこと  
だと僕は思うんですね。その見方によつ  
て、やっぱり偏見・差別が出てきてしま  
うんじゃないのかなつて思います。同じ人  
間であり、その人が回復するためには一  
体何が必要なのかということをみんなで  
考えれば、答えは自ずと出てくるんじや  
ないのかなと思うし、平和な社会になる  
というか。

殺人事件の加害者・被害者の一番多  
い関係性つていうのは、親族、親子間な  
んですね。親族、家族ですよ。その関  
係性での殺人事件が一番多いんです。

それは、目の前の人を愛することの難  
しさだと思うんですね。また、目の前  
の人を赦し合うことが難しい。だからそ  
ういう結果が生まれてしまうんじゃない  
か。

やはり、なかなか、犯罪を犯した人間  
を赦すということが本当に難しいです。  
行為を、僕は赦してはいけないと思うん  
ですね、行為自体は。ただ、人として、  
同じ人なんだつていうことを考えていた  
ければ、何らかの回答というか、答えが  
各々出るんじゃないかなと、そう僕は思  
います。



！・Nさん

被害者にとつての癒し、  
加害者にとつての回復とは

## 片山さん

とっても難しいテーマですね、これは。

よく、刑務所や少年院では、被害者の  
視点を取り入れた教育で、謝罪教育つて  
いうのをやっているところがあつて。

加害者の方からも、謝罪に関する質問  
はかなりあります。「どうやったら自分  
は赦してもらえるんでしょう」とか。「自  
分はこの先、どういう生き方をしたい  
らいいのしょう」とか。

私が答えることは、「自分がやったこと  
は、忘れないことです」という話をする  
事があります。その上で、「幸せになつて  
ください」ということを言います。幸  
せになることによつて自分の視界は広がり、  
考え方も深まり、他の人に対する愛情  
がより濃いものになつていくんじゃないか  
なと思います。その中で当然、被害者  
がいる人は被害者に対する思いも、より  
真剣に向かい合うようになるんじゃない  
かなと。

そうすると、「じゃあ具体的にどうすればいいんですか」と聞かれます。これが難しいですね。

「被害者のところに向いて謝りに行きましょう」とか、色んなことをアドバイスする人がいるんですけども、私は、「無理をしてまでそういうことをする必要はないです」ってお答えします。被害者側も、ある日突然、相手の方が「謝りたい」と来られてもびつくりしちゃうわけです。これは、もしかすると、ストレスが増すということになる。被害者支援の側から言っても、簡単におすすめできないという事情があります。

「ストレスなく、かつ、問題もクリアして、かつ、双方ともに満足のいく答えを見つけるにはどうしたらいいか」ということになると、被害者も、被害者を出した人も、双方ともに無事に一日が終わり、また明日が来る、喜んで生活ができることが答えなんじゃないかな、という風に思っていますね。そういう日々を続けていくことによって、被害回復に繋がっていくと思いますし、その中で色んなアイデアが浮かんでくるのではないかなと思います。

例えば、海外の例ですと、刑事施設中のプログラムがきっかけで勉強して刑務所の中から大学に入った、という元犯罪

者の人もいます。入っただけではなくて、きちんと卒業して、資格を取って、「同じような人のために自分は学校をつくるんだ」って決めて、実際に大学をつくった人もいます。地域で困っている人に向けた活動も、そこでできていると聞いたことがあります。

ですから、目先のことにこだわるとなかなか上手くいかないの、とりあえず無理をしないで、自分がイメージした生活に近づけるようにしていって良いのではないかな、と答えるようにしています。



河童さん

## 阿部さん

私、加害者家族支援をするのも、十年目なんですけれども、「これまでの経験があつて、例えば今五十嵐さんとお話をしたりとか、刑務所に行ったりとか、刑務所でお話をさせていただけるような経験ができたので、こういうお話ができるんですけれども。たぶん、十年前の何も知らなかった自分は、「犯罪者を赦せない」という風に思っていたかもしれないです、その当時は。

私は元々、色んなマイノリティー、社会的に弱者であるとか少数者であるという人たちのサポートをしてきた経験から、こういう活動に特化しているの、どっちかという、視点はやっぱり被害者なんです。もし、当時、まだ被害者の支援がなかったら、間違いなく被害者の支援をしたんじゃないかなと自分は思っています。

どちらかというと、加害者は強くて悪くて、みたいな風に思っていた。だから別に助けなくていいし、赦せないと思っていた。加害者家族にしか接する経験がなかった時期は、「家族の苦しみにしか共感できなくて、「家族がこんなに傷ついているのに罪を犯すなんて、なんて酷い人なんだろう」って。それを変えてくれた

のはお母さん方かな。子供が犯罪を犯したお母さん方。だから、本当に、「罪を憎んで人を憎まず」ですよ、大事なのは。本当にそう思います。

お母さん方と一緒に面会に行ったりとか、お母さんの代わりに面会に行ってお話をしたりとかする中で、結構、その加害をした人たちが語ってくるんですよ。「実はすごくお母さんに虐待をされました」とか。「たぶんお母さんは虐待だと思っていないと思うんですけども、辛かったんですよ実は」みたいな。そういう話を聞く中で、何でしょうね、家族一人一人にそれぞれ事情があるので、犯罪が起きた背景を知ること、家族を支援する上で重要なんだと考えるようになりました。

加害者家族と一緒に裁判所に行ったりとか、刑事施設に行ったりする中で、「ああ、やっぱり加害者家族って大変なんだな」っていうのが身に染みたんですよ。例えば、刑務所に行く時。刑務所ですごく不慣れな所にあるんですよ。タクシーを使う必要があったりするんですよ。そのタクシーに乗る時に、「何々刑務所にお願します」って言うのが結構嫌なんですよ。みんなそれでドキドキしてるという話をよく聞くんです。



私は時々福島刑務所に行くんですけど、福島の大クシーの運転手さんすごい優しくて、「福島刑務所にお願います」って言うと、「暑かったり寒かったりすると、中の人大変だね」っていうことを言ってくれたりするんですよ。そういう風に言ってもらえると何かこう、安心するんです。で、逆パターンもあつて。「あいつらさー」みたいな。「税金で食べて」「家族は大変なのに」「世の中に迷惑かけて」「何やってるんだらうね」みたいなことを言われたりすると、へこむわけですよ。

自分が実際にそういう体験をする中で、まずそういう風に感じるっていうことが大事なんじゃないかな、ということもすごく思うんですよ。

あとは、(加害者と関わる体験の中で、)逆に、被害者の状況も少し見えてくるというか。

事件を扱う中で、加害者が賠償できていないケースがあるんですね。じゃあ被害者の方は今どうしてるんだらうっていう。お金、結構大変じゃないかなとか、すごくそういうことを考えるわけです。「それは怒って当然だよな」って。そうやって、事件自体に関わっていくことが、色んなものを見せてくれる。

赦しについては、結末みたいなこと言えよ、分かりやすいハッピーエンドではないんですよ。加害者と加害者家族、もしくは被害者と加害者。分かりやすいハッピーエンドとかじゃないと思うんですよ。

例えば、加害者と加害者家族で言えば、今までのくくついていた家族が、これではいけないということに気づいて、適切な距離を取ったと。他から見れば別れたということになるんですけども、でもそれはそれで大事な距離だと思うんですよ。

あと、赦しは、むしろ当事者間というよりは、何でもなしの人に請いたいですよ、できれば。だってその人に迷惑かけてないから。だから罰することかもしれない。迷惑かけられた人は怒るし赦さないけど、別にそうじゃない人たちは赦してほしいかなって思います。



一兵さん

## 五十嵐さん

僕は加害者として、先ほど片山さんの話でも言われていた、「どうすれば赦してもらえるんでしょうか」という質問が多いというお話を聞いた時に、それは刑務所の問題だと思いました。刑務所が本当に生の声を受刑者に聞かせないからだと思うんです。

それと共に、まず一番大切なのは、事件を犯して、刑事裁判を受けている時に、いろんな弁護士さんがいらつしやるんですけども、「反省ありきの弁護活動」をするのが一番問題だと思うんですね。

犯罪を犯しました。警察の取り調べがあります。検事さんの取り調べがあります。当然それは、厳しく追及します。なかなか自分の声を言うことは難しいです。でも、弁護士さんは、簡単に言うんですけど、加害者：被告人の立場を考えるものから、当然そこで弁護士が、犯罪を犯した人の行為について詳細に彼らと向き合うことが一番重要だと僕は思うんです。

「なんであなたはこの犯罪を犯してしまったんですか」。そういうことをとんとん問い詰めれば、いろんな事情が見えてくると思うんですね。

ある事件がありまして、皆さんもご存知の事件なんですけれども、彼は幼少期から母親たちに暴力、虐待を受けて、そして、大きな事件を起こした。そういう家庭の中で育つて、学校も満足に行けていない。そうすれば当然、学校関係者は彼の家庭環境について予想がつくわけですよ。それにも関わらず、何の対応もしなかった。児童相談所も何もしなかった。民生委員も関わらなかった。

そして事件になって、大きな事件だから、「加害者が悪いんだ」と。僕は、これは社会が生んだ事件だと思います。社会の人たちが関わっているわけですから。

高齢者の事件もそうです。有名な、下関の駅で放火したおじいちゃん。おじいちゃん、刑務所を出てきて、警察、福祉事務所、いろんなところにアタックしました。どこも相手にしてくれない。「これは刑務所にいた方がいいや」ということで、駅に火をつけた。

被害金額が六億円です。じゃあ、六億円という被害額で、生活保護がどれだけ受けられるか。何で、行くところがなくて、再犯に走る可能性があることを想像できる状況で、手を差し伸べることをしないんですか。

もちろん、やった人が一番悪いですよ。当然悪い。でも、そのやった行為について、

本人に対して、「なぜ、こういう行為をしてしまったのか」っていうことをきちんと考えさせる過程を、みんなが省いてしまっているのではないかと僕は思います。

たまたま僕は、刑務所を出て自分が社会と関わる中で、自分の犯罪と向き合うことの大切さを気づかされて、はらわたが抉られるような思いをして、自分のやった行為が分かりました。

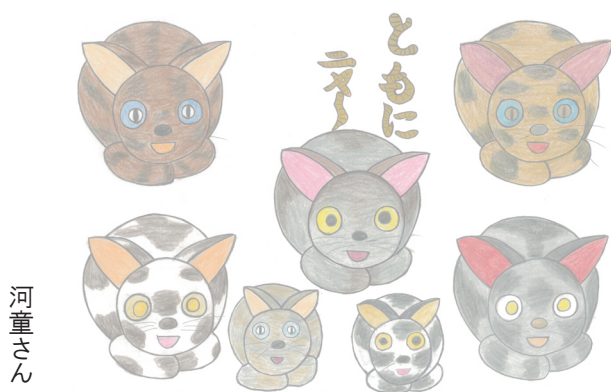
だからこそ、こういう活動をしようと思ったし、また、勇気を振り絞って犯罪被害者の方に手紙を出して、「自分はこういうことをしてしまったんです」と伝えた。その手紙によって、本当に被害者の生の声を聞いたから、「僕が『赦してほしい』』っていうことを言うのは、僕のただ単なる自己満足で、本当の意味での被害者を見ていない。自分の気持ちが満たされるために言っている」っていうことに気づいたんですね。本当に被害者が大事だったら、被害者の生の声を聞いて、被害者がどう思っているか、それに対して自分は何をすればいいのかを考えるものだと思います。

だから僕は、うちのメンバー達にも、「反省しなくていいよ」って言うんです。「『めんなさい』って口だけの反省はいらないんです。その代わりに、『悔い改めなさい』って言うんです。自分が犯したものに

い」って言うんです。自分が犯したものに對して、悔いて、行動で改める。その改めた結果が回復に繋がるんじゃないかなと。そして、それを判断するのは社会の人であり、僕からしたら被害者の方々だと思っています。

悔い改め・更生の態度は、各々の当事者の生の声を聞くからこそ、相手や社会の人にも通じるんじゃないかなと思っています。

(…来月号につづく)



## 特別コーナー①

### 初めて裁判を傍聴して

― 誰かのために「変わる」こと ―

dadaさん

私は都内の大学に通う平凡な文系学生である。

マザーハウスでボランティアとして関わり始めて数ヶ月が経ち、今回、五十嵐理事長がある刑事裁判での情状証人に立つということで、初めて刑事裁判を傍聴させてもらった。

私なりの感想をまとめてみる。

その裁判は、被告人の仮釈放中に行われた三件の窃盗に関する裁判である。警察官二名に挟まれて、証言台をじっ

と見つめながら、うつむいて座る被告人のAさん。何を考えているのだろう。証言台に立つて何を話すかイメージトレーニングとかしているのだろうか。警察官二名の退屈そうな表情とは対照的に、Aさんの真剣な表情と緊張した雰囲気伝わってきた。

裁判が始まる。

検察側から起訴状が読み上げられ、事件の事実関係・証拠を確認していく。続いて、弁護人側からも、時系列に沿って事実確認をしていき、自らが犯した罪を今はどう思っているか、今後どのような変わっていきたいかが問われ、Aさんは緊張のせいか細々とした声で、慎重に言葉を選ぶように、しかし、淡々と答えていた。

さらに検察側から、いわゆる「いじわるな」質問が続く。今回の起訴内容以外にも窃盗が常習になっていたのはいか、これまでも再犯してきたのだから、また再犯する可能性が高いので刑を重くするべきであるとの主張がなされた。

考えてみれば、再犯を繰り返しているのだから、また再犯するに違いないなどと主張するのは、刑務所では更生できないことを自ら暴露するようなものである。

Aさんを更生させられなかった刑務所にどのような問題があったのか、なぜAさんは変われなかったのか、そのこの問題と向き合う必要があるのではないかな。

弁護人側からは、彼が今度こそ変わろうとしていることを主張した。その証拠は、被害者に送った手紙、親に初めて手紙を送ったことなどであり、犯罪の確固たる物的証拠に比べると、脆く弱い証拠に感じられた。

「ここから先は、Aさんを信じてあげられるかどうかという領域になってしまふ。」

そして、五十嵐さんが情状証人に立つ。これまでは、Aさんの、不安げで、自信のない小さな声に誰もが耳をそばだてて聞いていた法廷の空気が、ガラリと変わる堂々たる声が響く。

「マザーハウスでは、これまで何人もの人が変わってきた。そのことを証拠に、Aさんも絶対変わるはずである」という、力強い主張だった。

そこで私は気づいたことがある。

マザーハウスに来る人たちはそれぞれ、自分の罪と向き合い、周りに支えられながらも、本人の強い意思によって少しずつ回復し、社会復帰し、人生を取り戻しているが、それは全て彼らのためであ

ると思っていた。

しかし、彼らが変わったことが証拠となつて、Aさんが変わるチャンスを作ることにつながろうとしている。マザーハウスに来て回復し変わることは、自身のためだけでなく、別の誰かが変わることを後押しすることにもつながっていたのだ。

刑務所を出ても再犯に至ってしまったのだから、今度は違う方法でAさんが変わる方法を考えるべきである。このように主張することは何かおかしいだろうか。

裁判官からは、Aさんが友人宅でモノを盗んだことについて、「あなたにとつて友人とは何ですか？」という質問がなされた。Aさんは言葉に詰まっていた。

もし、私がAさんの立場であるの証言台に立っていたら、どのように答弁することができただろう。被害者たる友人に謝罪の手紙を送つても、受け取ってもらえなかったという。もし、私が友人で、モノを盗まれたら、赦すことができるだろうか。

マザーハウスとAさんの関係はもう始まっている。全力で応援していきたい。

(おわり)

理事長の奥さんによる

## 育児日記

ある日、一君と妹のKちゃんが夫婦「こ」をして遊んでいました。

一君がお父さん役、Kちゃんはお母さん役で、一君が、「Kちゃんはお母さん役で、一君が、一くんはおしごとについてくるから!」と言って、アンパンマンカーに乗ってテーブルに座っていた私の所まで来て、「すみません、けいむしよにはいりたいんです!」と言ってきました。

「刑務所は悪いことをしないと入れません」と言うと、アンパンマンカーでテーブルの周りを一周して、「スピードでしたよ」と言ったので、「それだけでは刑務所には入れません、一君はとつてもいい子だから刑務所には入れないんだよ」と言うと、「えー!」と残念そうな顔をしていました(笑)。

家族で海に行った帰りに、座敷の個室で夕食を食べていると、妹のKちゃんが納戸を指さして、「こわいこわい」と言うのですが、私達には何も見えませんでした。

車に乗ると、「もういいいよ!」と言っていました…! (怖)

次女のRちゃんは、ずりずり這つて、おもちゃ目がけてあつという間に移動をしています。そして、よだれをいっぱい出しておもちゃを舐めています!

一君は次女のRちゃんを笑わすのが上手で、三人で楽しそうに遊んでいるのが微笑ましいです。



さんにんなかよし♪



## 特別コーナー②

### 文通ボランティアより

#### 寄せられたご相談

☆文通ボランティアをされている方からいただいたご相談を紹介させていただきます。同じような悩みをお持ちの方、また、この文章を読んでハッとされる受刑者の方もいらっしゃると思います。



湘南のバイク乗りさん

文通のことで、ご相談いたします。  
相手の方は、丁寧で友好的です。ただ、部分的にお手紙の内容で、文通の主旨を認識しておられないのでは？という印象を受けます。

例えば、キリスト教に関心をもたれ、ご質問をいただくのはありがたく、私なりに応答したいです。が、「聖書がほしいのにマザーハウスさんに言っても返事がない」など、マザーハウスさんや私の立場を、クリスチャンならアレンジしてくれると思っておられるような文面で、困ります。

私は文通の部分だけではサポートできないですし、マザーハウスさんも、文通ボランティアに対してそれ以外は望んでおられないはずですが…。

他にも、お願い自体は大きなことではないかもしれませんが、「サポートしてくれるから文通してくれている」という感覚をお持ちであるように感じます。どんなエスカレートしていく気がします。  
また、私たちボランティアを通せば、マザーハウスさんに希望が聞き入れられるものでもなく、私たちにそのような効力もありませんので、文通されている受刑者の方には、ご理解を深めていただきたいと思います。

私自身、仕事が忙しく自分の問題も持ちながら、前向きに文通を通して、社会復帰なさる準備のサポートの一環を願っています。

(おわり)

## わさきみつお コーナー

\* ブログ：<http://ixsasaki.ti-da.net/>

### 霊はすべてを支配する

「クエエの法則」を知っていますか？  
「想像は思考に打ち勝つ」という法則です。

自己暗示法の創設者、フランスの精神科医・心理学者エミール・クエエによって実証されました。

聖書的に言うところ、「スピリット（霊）はマインド（思考）を支配し、マインドはボディ（体）を支配し、ボディはライフ（生活）を支配する」という法則です。

「すべてはますますよくなっていく。すべてはますますよくなっていく。。。」。リラックスして、繰り返し静かに自分の心の深み（霊）にこう語りかけていると、だんだん否定的な思いから解放され、すべてがよくなっていくように思えてきます。すると、次第に気力が回復し、体調もよくなり、現実の問題に取り組んでいく心身の力が湧いてきます。

結果として、時間の遅速はありますが、生活のすべてがよくなつていきます。

こうして、「神を愛する人のために神はすべてを益にしてください」（ローマ八章二十八節）という聖句の真実を実際に体験します。

「わたしはできる。わたしはできる。。。」（ピリピ4：13）と、繰り返し自分に言い聞かせていると、本当にできるようになってきます。

正確に言うと、キリストを信じ、神によつて新しく造られた人は、「神の子」すなわち「全能の父なる神の子ども」ですから、どんなことでもできるのです。

神の言葉によって命を吹き込んで、「神の子」としての本当の自分を現していくのです。「聖書の言葉」すなわち「神の言葉」は、霊であり命であり、創造する力（生かす力）があるからです。

「わたしは癒されている。わたしは健康である。」（イザヤ五十三章五節、第一ペテロ二章二十四節）

繰り返し「こう唱える」ことによって、健康を維持することができます。

こうして、私はすでに五十年も医者にかかったことがありません。健康診断も受けたことがありません。その必要がないからです。

「主はすべての病をいやす」（詩編百三章三節）という神の言葉は、これを信じる者にとっては本当にそうなのです。

聖書にいう「告白」の本来の意味は、聖書の言葉に心の底から同意して、これを自分で宣言することです。「信仰」とは、「神の言葉」を心の底から信じ、これを告白（宣言）することです。

宣言する信仰（フェイス）には、既成の事実（ファクト）を変革・創造していく力があるのです。

受刑者からのお手紙

## 塀の中の たより

考え続ける

S・Hさん

手紙の返事、たより、ありがとうございます。

最初の返事を頂いてから、己の至らなさと、事件に本気で向き合えていないことを痛感しています。

今まで、私ができることはないし決め付けていましたが、頂いた言葉のおかげで、「できること」「しなければいけないこと」が見付かりました。それは「考え続けること」です。

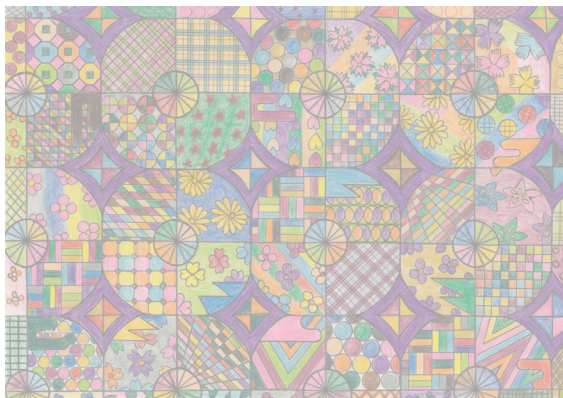
今、事件や被害者さん、傷付けた、迷惑をかけた方々に対して考えていることと、十年後に考え続けて出した答えは、もしかしたら変わらないかもしれません。しかし、その中身の濃さ、重みは全然違うと思います。だから考え続けます。視野を広げ、自分がしたことに向き合います。その上で、「回復プログラム」は、自分について、事件について、被害者さんについて、傷付けた、迷惑をかけた方々について、広い視野で考えることでできています。

また、今まで考えていると思っていたことが、全然考えられていなかったこと、何も向き合えていなかったこと、自分のことばかりで、被害者さん、事件、傷付けた、迷惑をかけた方々への想いが全く無かったことなど、多くのことに気付きました。

出所という一つの目標があり、不自由のない生活をさせてもらっている私には、被害者さんの苦しみはわかりません。そんな傷と闘い続ける被害者さんの痛みはわかりません。本当に取り返しのがないことをしたのに、苦しみ、悩み、不安や痛みと闘っている原因である私は、まるで他人事のように、考えを巡らせることなく、先ばかり見えています。

今の私には、本当の反省、更生など全くできていません。

だからこそ、マザーハウスの力をお借りしたいです。今のままでは、私は一生、変われません。受刑生活が無駄に過ぎ、中身の無いものにしてしまします。何故ここに居るのか、何をしたいのか…もう一度、一から考え、私の「しなければならぬこと」と向き合うために力を貸してください。お願いします。



河童さん

## 話すことによつて

A・Tさん

人に話す事によつて、自分の考えを整理できたり、色んな人の意見を聞いて参考にしたりと、何かのきっかけをつかめる時があると思います。

先日、担当が声をかけてくださり、二人で話をすることができました。初めてです。

私は、失敗が多いし、いっぱい怒られるから、勝手に壁を作っていました。忙しい中でわざわざ舍房で話をしてくれた時に、いつもの激しく厳しい注意指導でなく、ゆつくりと語り聞かせる言いが私の心に深くしつかりと届きました。担当の気持ちや意見を聞いて、今までの不平や不満が恥ずかしくなりました。どうせ嫌われているからどうでもいいと諦めていましたが、担当と先日話しをしただけで、私の気持ちが変わり、好きになりました。

色んな事で悩んでモヤモヤしていた心の中がスーッと晴れたような気がして、気持ちが本当に軽くなりました。

私だけでなく、近くの舍房で私たちの話が聞こえていた者の中には、担当の良一面を認識することができたと言う人もいて、翌日に二人で話を一緒に喜びました。何も感じなかった者も居ましたが、少なくとも私の心を開かせてくれたことは本当に嬉しかったし感謝しています。

だけど、信用されることは簡単にはできませんので、今からの生活でコツコツと努力し少しずつ信用を取り返せるように頑張ります。

結果が出るのは、半年先、一年先でしょうが、私が本当に努力していたら、いつかきつと必ず相手に伝わると思うので、しつかりと努力していきます。

悩みや相談が多くなると、相手は面白くないでしょうし、人の悩みを解決できる人はそんなにいないでしょう。だけど、悩みを聞いてくれるだけでも、少しは救われる時もあると思います。

今回、担当と話ができて私の気持ちが救われたように、悩みの解決方法が見つからなくても、考え方を変えるヒントが何か見つかったり気がついたり、見方を変える方法やきっかけを見つけてくれることがあると思います。

そのためには、お世辞や綺麗事を言わず、嘘や大きなことを言わず、自分を素直に出すことが大切だと思いました。

楽しい手紙や会話はかりじゃなくても、話すこと、伝えることによつて、何か生まれたり気が付いたり変われたりするところがあるので、本当に大切だと思っています。

私には、「会話」が私を変える大切なものだと思っています。



湘南のバイク乗りさん

## 出所を控えて

Y・Kさん

今月も、たよりが送られてきました。ありがとうございます。内容が、私が社会へ帰る日が近いため、深く考えさせられることばかりでした。

最近、タウンワークを見て思ったのですが、私がここで取得した資格に対しての求人が一個しかありませんでした。正直、社会は厳しいなあと思って思いました。それと、自分の選択ミスに落ち込みました。登録販売者の資格を取るべきだったと思いました。介護に対しては、求人がとても多く、食いつぶれがないなあとも感じました。「介護福祉士」とか、六か月の勉強で、他刑での申し込みがありましたが、残刑があれば受けたかったなあと思っています。

確実に社会をつなげられるものを一つでもと思っていました。簡単なものではなかったです。はあ、「今刑は」という思いでしたが、失敗。生きにくいですね、社会って。出所が、三、四か月後です。出所が怖くなりました。



私は、マザーハウスに対して、声を大にして、頭を下げて、お礼を言いたいです。今まで本当にありがとうございました。たよりを読んでみると、様々に中での生活に苦しんでいて、厳しいものが多く…。私は、ガス抜きがマザーハウスであり、いつでも寄り添っていたこと、感謝しています。本当にありがとうございました。

## 今回だから気づけたこと

K・Sさん

今回の事件で、自ら刑事さんの携帯へ連絡をし、自首した時から、これまでのことを振り返り、思い、感じるがあります。それは、「守られている」ということです。

調べの刑事さんから始まり、検事さんにまでも、厳しくも思いやりのある言葉をかけていただき、弁護士の先生は、何回も面会のため足を運んでくださいました。母からは、大病を患いながらも、こ

まめに便りをもらい、色々と気遣ってくれました。そして、出所して五十日でのようなことになってしまったにも関わらず、理事長が私の引受人になってくださると言ってくれたこと、情状証人のため、弁護士の先生と電話で長くお話しくださり、その内容が裁判所で採用されたこと…。

そして私は、今回の判決で、一年半あまりの刑期のうち四か月を二年間の執行猶予となり、出所後には帰住する所もあることから、ものすごく気が楽でいられます。またも人生に大きな穴が開いてしまいましたが、今回だから気づいた、人生にぽっかり空いた穴から、これまで見えなかったことが見えてきて、ストレスを感じない生活ができております。

とはいうものの、気を抜いた生活はできません。もちろん、出所後の執行猶予二年間が一番意味を残しており、この二年間には保護観察も付き、月に一度の保護司の先生との面接の他に、毎月観察所に行き、教育を受けなくてはなりません。周りの人は大変だと言いますが、これで私自身が改善更生され、新たな人生、これまでと違った人生を歩めるのです。

そう考えた時、猛暑での独居生活も、これから始まる受刑生活も、出所後の

猶予生活も、何一つ苦とは思えず、恥ずかしながら八回目の受刑生活ですが、ある意味これが最後と思うと、一つ一つの動作、起きたことなどを楽しむように生活しております。もちろん、緊張感を持って、日々生活しております。

秋を感じる風と共に、私の心にも新たな風が吹き始めていると感じるのは、気のせいでしょうか…。



河童さん

## 皆さんの声に 励まされます

K・Kさん

いつもマザーハウスたよりを拝読し、皆様の更生に向けた熱い思いに感心し、自身の更生へのモチベーションとして励まされています。

私は、無期刑として務め、過去に二回の懲罰となりましたが、今は九年八ヶ月の無事故です。

色々とツライこともありましたが、たよりを拝読しながら、色々考えています。

同囚とのトラブルも何度も経験しましたが、その都度、何のために生きるのか、懲罰へ行つて悲しむ人は誰か、と自分に言い聞かせてきました。

そのせいか、感情的になることも減り、穏やかに過ごせるようになりました。

今後も楽しみにしております。

## 医務の対応

T・Rさん

私が聞いていたきたいことは、医務のことです。

先日、足の裏が痛痒く、水疱のようなものができており、それが破けて赤くなっていたので水虫かと思い、医務に申し出ました。

すると、すんなり連行されて医務室に行きました。そこには、医師と二名の医務官がおり、医師が私の足の裏を見てくれました。

するとすぐさま、横にいた医務官が「あー、それ涼しくなると治ります」と言ってきたので、私は、「これ、水虫ですか?」と医師のほうに尋ねると、医務官が横から口を挟んで「水虫かもしれないし、水虫じゃないかもしれない。分からない」と言い、後を追うように、医師も同じことを言いました。

そこで私が、「痛くて痒いのです」と医師に言うと、また医務官が、「それ、俺もあるんだ。寒くなると治るから」と。

で、私が「薬出ますか?」と言ったら、即答で「出ません!」と言われました。医務官にです。

また、私が、「では、この水疱、これ以上広がらないですよ?」と尋ねると、また医務官が、「広がるかもしれないし、広がらないかもしれない。分からない!」と言うのです。

すると、別の医務官が、「はい、診察おわり!」と言い、なんだか追い出された感じになり、「完!」となってしまうました。

で、私は何が言いたかというところ、こんな診察の仕方てあります?ドラッグストアのアルバイトじゃあるまいし、それに、医師の存在があつても、ほほ何も喋らない置物じゃん!」と言いたいのです。これではまるで、ビートたけしの番組です。たけしって、ほとんどテレビの中では喋りませんものね(笑)。医師もそうだった!

それで私は、肝機能もすぐる悪いのですが、高い数値のGTPを抑える薬も、医務官が薬を選択し、医師がその返事をするのです。例えば、医務官が、「〇〇の薬にします。これで良いか」と医師に伝えると、医師がただ頷かんじなので

す。普通、逆じゃないの?って思うんですけど、私、間違ってます?

それに、水虫かどうかも分からない方々に、私の肝臓を任せて大丈夫なのだろうかと、と首を傾げます。

それで、その後、医師が領いたら、「それでは、肝臓の薬を朝・夕、二回出します!」と言うのです、医務官が。その苦痛にギブアップ。

いくら矯正施設とはいえ、このような運営って許されるのでしょうか?

私はこの収容所に来て、性格がものすごく悪くなったと感じています。とにかく、何も信じられない。信頼も要らない。食べ物にも全く興味が無い。人間関係も無意味、特に何の評価も要らない。ただ毎日、職員に注意を受けないように、上手くやろう!としか考えていません。

あ、一つ覚えたことがあります!それは、すべてを諦めて無関心でいよう、ということなんです。



一兵さん

ですが、今はMLPのHさんとの文通が、私にとって一番素直になれる時です。本当です。Hさんは、私のことを人として認めてくださいますし、いつも豊富に湧き出る温泉のごとく、愛情かけ流し状態のお言葉をくださいます。心の底から感謝しております。

## 前向きに

F・Tさん

私の方は、お盆休み中は、独居で生活しています。壁だらけで、「暑い」の一言ですよ!雑居なら扇風機があります。独居ではうちわのみです。「動いても、動かなくても、大暑かな」(笑)。

また、作業は、香典袋と祝袋の十枚を数えて袋に入れて梱包、の毎日です。六人の中の班長です。毎日、何事にも前向きに生活しております。

## 奉仕の精神とは

Y・Tさん

最近、明るいニュースがありましたね。スーパーボランティアの尾畠さんによる山口県周防大島町の理稀ちゃん発見の報は、涙なしでは見られませんでした。

幼い命が救われたことの喜びと安堵はもちろんのことなのですが、尾畠さんの行為こそ、キリスト教の根本原理である「汝の隣人を愛せよ」の一言に尽きると思います。

今の世の中は、自分、自分ばかりで、利己心からの主張ばかりをします。そのため、義務や責任という当たり前のことさえ、考えることが全く乏しくなっていると思います。尾畠さんのような生き方も、他者への愛をあらわす一つの形であり、その取り組みの素晴らしさに尊敬の念と感動を覚ええました。何よりも私の心を打ったのは、尾畠さんの無私の心であり、奉仕の精神でした。

私たちの心の中には、隠された秘密の差別意識があり、その根は人間の奥深

くに潜んでいます。私たちはそれを認めたくありません。しかし、私たちはいつも誤った優越感で周囲の人々を見てしまっているのです。その証拠に人を裁いています。人々に尽くすとは、絶対に無償のもてなしと同じでなければなりません。受けた親切に支払うことのできない人たちが、自分たちの貧しさを苦にしたり、恥をかいたりするようなことがあつてはならないと思うのです。

何か偉大なこと、美しいことをしようとする人々は、自分に野心はないと考えていても、高慢からくる幸福感に抗うことが難しいです。彼らが何らかの意味で「成功した」と感じて満足に思うなら、それは神様の道ではないことを、私は聖書から学びました。見返りを求めないからこそ、美しく、感動を呼ぶのだと思います。



風つ子さん

## 心から喜んで アガペの愛を実践する

O・Mさん

今回の手紙に、「アガペ」のことが書かれていました。

現在、私も、素直な気持ちで「アガペの精神」を実践できるように努力しようと思っていますが、それでも時々、どうしても自分のことを考えてしまうことがあるのです。それが情けないのです。

純粋にアガペの精神を全うしたいのに、分かっているにも邪心が湧いてくることがあります。そんな自分が本当に情けなくて仕方がないのです。

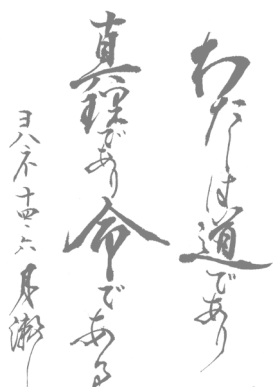
「アガペの精神でいよう」という心で実践しているのに、純粋な喜びを持つて、素直な気持ちでそれができないのは、心が弱くて未熟だと言いたいようがありませんが、でもそんな自分に腹が立ちます。だから、そのことを伝えたくて、前回のお手紙に「アガペの愛を実践するのは」そう簡単なことではありません」と書きました。

決して否定しているのではなく、心から喜びながらアガペの愛を実践することができないからです。

イエス様が人々に対して行ってきたことはどんなことだったか、また、その時、どんな気持ちでそれをなさっていたか、そこをよくよく考えることで、イエス様を手本として、自分の取るべき行動を考えてみようと思います。

今の私は、そのことを「十」考えて、「一」できるかどうかは分かりません。難しいことは何も分かりませんが、「こうなればいい」ということは少しだけ分かります。

これから、もつともつと心からアガペの精神を持てるよう、また、自然とその心がにじみ出てくるような人間になりたいと、心から真剣に思っています。



作者不詳



## 「甘えはダメだ」と 思い直して

S・Hさん

今年も色々ありましたが、熱中症で、私の工場の同じ班だった人が亡くなりました。独居の人でした。独居は四階での生活で、「とても暑い」と言っていました。私の命と交換しても良かったなという思いもあります。

私は、友人もそんなにいないし、そろそろかしいし、四十代になって、刑務所に六回、少年院も入れたら八回目となります。父も母も亡くなり、独り者となりました。いま、この年から「新たな人生を」と思っていますが、甘い考えしか持っていなかったと思っています。

前回もらったお手紙で、考えさせられました。お手紙で言われた通り、帰る所がなく、そればかりだったと思っています。

マザーハウスに相談すればどうにかなると思っていました。甘ったれてたなと思っています。

もうずっと罰を受けていて、出所する時は、懲罰が終わって独居から出所かと思っていました。が、「甘えはダメだ」と思っている、今は工場に出て、共同生活をして、この部屋から満期出所となります。

## 物事を軽く考えない

M・Tさん

先日送って頂いた『幸いな人』八月号を読んでいて、これは私にも同じような経験があるなと思って共感できる内容があったので、それらについて書かせてもらいます。

一つは、『あれがなくなった』『これも消えた』『あの人が去ってしまった』『この人もいなくなってしまう』。そのような喪失の痛みは、『わたしを求めて生きよ』という主の御声が大きく心に響き渡ってくるチャンスとなりました。そのことを感謝します」というものです。

私は、今回が三回目の服役になります。が、この間に、多くの友人や知人、仕事を失くし、今回の服役中には身内の不幸もありました。帰る家も失くしてしまっている、今でも喪失の痛みを感じながら、日々を過ごしています。

もちろん、これらの結果は自身が蒔いた種であり、腐っても仕方がないことは分かっています。だから、残りの人生に對して、前向きな気持ちで希望は持っています。とは言え、不安な気持ちの方がはるかに大きくて、心のどこかに諦めのような気持ちも少しはあります。

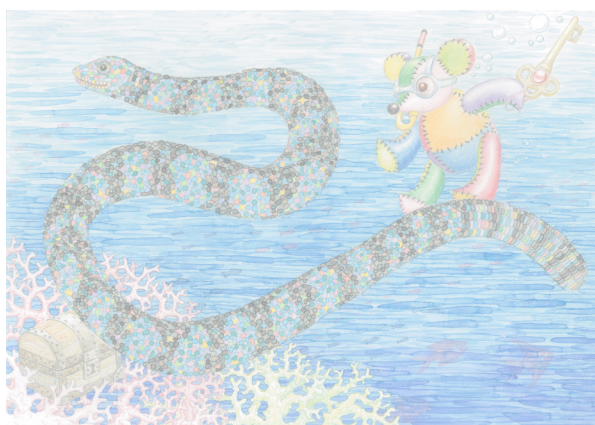
でも今回、この話を読んで、こういう捉え方があるんだと気づかされて、目からウロコが落ちるような思いがしています。

これをきっかけにして、これからはこういう気持ちで心の目を開いて、耳を澄ますように心掛けていけば、今は大きな不安が少しずつ小さくなるかもしれないと思つて、さらに前向きになりました。

次に、「高慢は罪です。神様は、罪人たちが『災いは私たちに近づかない』と言っている、と語っています。自分は大丈夫、と思つている時は、実は傲慢になっている時かもしれません」という話です。

私は、以前にいた工場で計算係を任されていた。でも、自身の未熟さから愚行を犯して、懲罰を受けました。後に振り返つてみて、「自分は計算係だから挙げられることはないだろう」と、高を括っていたなと思いました。

その後も独居棟の経理係（雑役）を任されましたが、「見つからなければいいし、見つかったもたぶん挙げられないだろう」と思つて、つまらない反則を犯して、また懲罰を受けました。



光りんさん  
「ときには、冒険しよう」

人間は罪深い生き物で、同じ失敗を何度も繰り返すと言いますが、私がまさにその通りです。その度に、多くの人たちの期待を裏切り、迷惑を掛け続けてきました。

過去にこのような経験をしている私にとつては、とても身に染みる話でした。

今の私は、別の工場で衛生係を任されています。この工場に配役されたばかりの時に、工場担当職員から、「お前の過去は俺には関係ない。これからのお前を見る。だから頑張れ」と言ってもらえました。そして、衛生係を任された時も、「お前を信頼して任せる」と言ってくれました。

いずれの時も本当に嬉しくて、出所するまでこの工場で頑張ろうと思えました。だから今は、過去の失敗を踏まえて、「高慢にならない」「物事を軽く考えない」というのを肝に銘じて、最後まで何とか衛生係としての仕事を全うしたいと思ひながら、日々を過ごしています。

今書いた二つの話は、過去の失敗を改めて思い出させてくれて、私を戒めてくれました。なので、これ以上同じ失敗をしないために、これらの話をノートに書き写して、これからも時折読み返すことにしました。

これは、数年前にある方から教えてもらった受け売りなんですけど、チマッティ神父の教えに、「どんな仕事でも、聖霊様に祈って一緒にすれば、それは二人ですることになる」というものがあるんだそうです。

何だか心強くなる言葉だなと感じたものです。

衛生係は、やることが多くて忙しいし、何かと大変なんですけど、私はこの教えを知っているので、毎朝、「聖霊様、今日も私と一緒に仕事をしてください」と祈りながら取り組んでいます。

最後にもう一つ、「神様である御父は私たちにみことばを与えてくださるお方です。みことばが与えられなくなることは、大きな神の裁きです。みことばが与えられなければ、罪を示されることもなく、正しい道を知ることでもできず、悔い改めることもできないからです」という言葉を紹介します。

私はこれを読んで、怖いと感じたので、これからも聖書をはじめとするキリスト教関連書を、少しずつでもいいかなるべく毎日読んで、みことばから遠ざからないように心掛けようと思いました。

キリスト教関連書の中には、『幸いな人』や『百万人の福音』ももちろん含まれています。これからも、感謝の気持ちを持って、大切に読ませてもらいます。

そして、ただ頭の中で理解するだけじゃなくて、行動も伴う人間へと成長できるように心掛けて、毎日を過ごしています。

## 平和の柱

K・Hさん

平和には五つの柱があるかと思っています。

①忍耐、②貧しくなること、③そこに  
いること、④祈ること、⑤赦すこと、の  
五つの柱を胸に、また肝に銘じ、所内生  
活を頑張っていきます。



理事長の奥さんによる

## Lovely DAYS

マザーハウスには、少しずつ家族が増えてきている。みんな素晴らしくて尊敬する人達だ。

一人は、出所したその日からマザーハウスのお手伝いを泊まり込みでしている。もう一人の当事者は、部屋が決まるまで、見ず知らずの半身不随のお爺さんと一緒に同居して介護をしている。そしてもう一人は、そのお爺ちゃんに杖を買って渡したり、みんな心優しい。

先日、十六人で海に行ってきた。泳ぎ終わって当事者が着替えていると、みんなすっぽんぽん……、公共の場ですがっ……後日、当事者一人に事情聴取をする、長い受刑生活で「隠す」ということを忘れてしまっていた、とのことだ。

どうかこれから出所されるみなさん、くれぐれも「隠す」ことを忘れないでほしい。

出所者からのお手紙

## 塀の外の たより

毎日生きていることに感謝

M・Sさん

異常ともいえる暑さが続いています、皆様、夏バテなどされていませんか？

私は、今年の五月に仮釈放で出所し、今は家族と暮らしながら仕事に通っています。

在所中は、マザーハウスの活動に随分助けていただき、感謝の気持ちと近況報告を兼ねての手紙を書くことにしました。

M・L・Pで文通をしてくれていたMさんは、出所間際まで、心のこもった温かい手紙を何度もくれました。私のことを毎日祈ってくれていたのですが、出所後もそれを続けると言ってくれました。

私は覚せい剤で六度目の受刑で、依存についての悩みを打ち明けて相談に乗ってもらっていました。自分で自分のことを心配するのは当然ですが、見ず知らずの私の為に真剣に考えてくれ、向き合ってくれるMさんの優しさには本当に救われました。



まさひろさん

自分の為に、そして、自分を応援してくれる方たちを悲しませない為に、これから一生頑張っていくつもりです。

薬物依存は深刻な問題です。在所中は不安も大きく、Mさんが調べてくれたN・Aのミーティングに通うつもりでしたが、今は毎日の仕事に忙殺され、一度だけ行っただけのままだになってしまっています。

N・Aのメンバーは良い人ばかりで、共に闘おうと言って温かく迎えてくれました。仕事の都合で毎週は通えませんが、自分はそれでもいいと思っています。不安になった時に相談できる仲間ができただけでも心強いです。

仕事は、同級生が紹介してくれた会社で、営業をしています。外回りなので、今年の暑さはこたえます。家と職場が離れているので、毎朝六時前に家を出ます。正直、楽な仕事ではありません。でも、食べていく心配がないというのは良いものです。今まではろくに働いたことがなかったのです…。

それから、近所のカトリック教会を見つけ、毎週日曜日のミサにあずかっています。全くの初めてだと言う私にも親切に色々教えてくれ、楽しく通っています。

洗礼に向けての勉強会にも通い始めました。受刑中からしてきたことですが、毎日の祈りも続けています。家族やMさん、そして自分にとって大切な人たちの為に祈っています。

今、自分が毎日生きていることに感謝できているのは、キリストの教えのおかげだと思っています。これからも導いていただきたいと思っています。

マザーハウスの活動が、これからも、苦しんでいる人たちの助けとなってゆくことをお祈りしています。

それでは皆様、熱中症にはくれぐれもお気をつけください。梅干しを食べるといいですよ。



光りんさん

「ボクの想いを届けておくれ」



看護師 中谷先生による

# 健康相談窓口

## ご報告

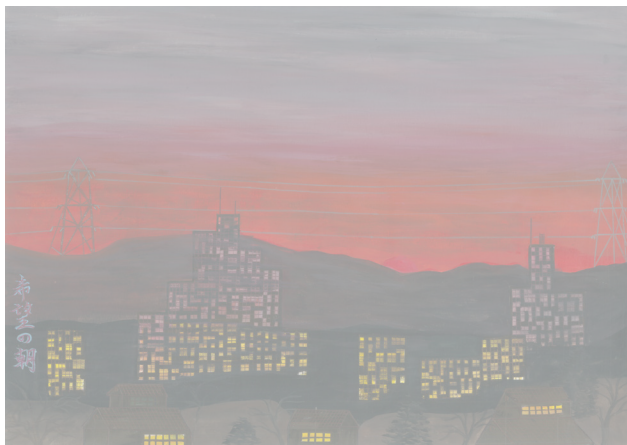
皆様、いかがお過ごしでしょうか。この場をお借りして、報告がいたします。

私は、平成二十七年から看護学の博士課程に在籍していましたが、おかげさまで博士の学位を取得することができました。本当ならば、研究内容は矯正施設での健康モデルを開発することが目標でありましたが、看護学ではそれを受け入れてもらうことができなかったため、高齢者施設でのケアの質を向上させるモデルを開発して、その効果を検証しました。

「先生はこれからどのような目標を持っていますか」と、健康相談の中に含めて質問してくださる方が数名おられましたので、その回答もこの場でさせていただきます。

私にとっては、矯正施設内でも健康を害すること無く過ごすための方法を検討して実践することが近々の課題です。

しかし、先日、「あなたがそのようなことをする意味はどこにあるのですか？」と聞いてこられる方がいらっしやいました。



河童さん

どこに住んでいても、その人らしく生きるためには、健康が必要であると思っています。施設を出所されても、健康でなければ働くこともできません。

しかし、何らかの理由でその健康を保てなくなることがあります。私は、その状況をそのまま見過ごすのではなく、自身の身体を大切に考えて欲しいという思いが根底にあります。

「そのためにできることは」と考えても、社会制度を変える力も能力も私は持ち合わせていません。そのため、持っている知識と技術を提供して、その人に合わせた具体案を提案することが私にできることなのではないか、と考えました。

その想いを持っているにもかかわらず、言葉に表現して伝えることができておりませんでした。

そんな中で、前回の健康アンケートでの回答をまとめた結果、歯牙数が平均値よりかなり低いこと、C型肝炎の治療者が多いこと、精神疾患を持つておられる方や喫煙者が多いことなど、皆さんに共通点を抽出することができました。

この中で、わたしはケアモデルとして、口腔ケアを三分で確実にを行う方法を歯科衛生士の協力を仰ぎ作成したいと考えています。

歯磨き粉、歯ブラシは、今使用されている物を使用します。

その方法を開発し、ケアモデルとして、受け入れてくださる刑務所に出向いて指導をさせてもらえないだろうか、今、考えています。

ただ歯磨きの方法を教えるだけではなく、口腔の機能をしっかりお伝えもしたいなあと思っています。いのちは、口から始まりますからね。

このような考えを持って取り組んでいきたいと考えていますが、実際、皆様が求めておられることとして、健康増進をするために知りたい内容がありましたら、ご意見を頂けないでしょうか。

もしくは、「口腔ケアなんて、自分でやっているから、特に必要ない」などのご意見でも構いません。教えてください。

独りよがりではない、必要なケア支援を考えていきたいです。

今回は、健康相談ではなく皆様への意見をお聞きする内容になってしまいました。次回からはまた、皆様よりいただいたお悩みにお答えできればと思います。

## お知らせ（受刑者の皆様へ）

### ・聖書の送付について

→マザーハウスでは、聖書の寄贈があった場合のみ、受刑者の皆さんにお送りしております。それ以外で、無料でお配りすることはしておりませんので、ご注意くださいませ。

### ・講演後アンケートについて

→「否定的な意見について知りたい！」という声が時々寄せられますが、ある場合はなるべく載せておりますが、ほとんど無いので載せておりません。あったとしても、意見ではなく単なる中傷に近いもの（「気分が悪くなった」など、もっとひどいものもあります）なので、それで載せていない場合があります。

### ・イラストについて

→「たより・獄 POS で、イラスト用紙の、イラストが表裏両面になっているものは大丈夫か」という質問をいただきましたが、スキャンの都合上、片面で描いていただくと嬉しいです。両面でも問題なくスキャンできるかもしれないので、作品がある方は、送ってくださいます。

### ・福音たよりについて

→福音たよりは、皆さんにお送りしていると思うのですが、特に最近マザーハウスに入会された方で、「福音たよりをもらっていない」という方はお知らせくださいませ。福音たよりは、マザーハウスが発行しているキリスト教に特化した冊子で、希望者にのみお送りしております。

→また、福音たよりへ質問を寄せていただいた皆様、ありがとうございます。クリスマス号の誌面で回答させていただきます。

### ・たよりへの感想文について

→いつも感想を寄せてくださり、ありがとうございます。たよりや各コーナーへの感想は、随時、各担当者・執筆者（ささき先生や、中谷先生、理事長の奥さん、イラスト作者の方など）にそのままお伝えしております。これからもお待ちしております。

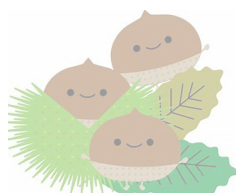
### ・処遇に関する不満について

→事務局では対応できませんので、たより7月号の理事長挨拶にある、上川陽子／田中和徳衆議院議員事務所へ、状況を訴えるお手紙を出してくださいませ。

### ・フランス人男性との文通について

→たくさんのご応募ありがとうございました。日本語での文通の方は、10月いっぱい締め切らせていただきたいと思います。フランス語での文通につきましては、まだ募集中です。

以上



## つぶやき！

自分の体の感覚が全然つかめません。子供みたいです。擦り傷とか痣とかたくさん作ってます。あちこちづかります。つまずきます。

思ったように身体が動かせません。思った方向に進めません。力が入りません。逆に、力が入りすぎます。言葉もしどろもどろです。あるいは何も出て来ません。すべての歯車が合っていないです。間もかなり悪いです。

つか、何なんですかワタシ？自分が、もどかしいです。みんな、ごめん！それと、ありがとう！ー！

そんな出所後三ヶ月です。ぼんこ修理中です。  
(出所者Mさん)

## 編集後記

こんにちは！今月号も無事に完成してほっと一息です。

今月の理事長挨拶の原稿を読んでもと、神父様の説教のような内容で、文法もしっかりしていて読みやすく（普段は文法そっちのけで書かれているので難解です（笑））、これまでの文章とは全然違っていたので、びっくりして、「本当に理事長が書いたのですか？引用したものなら引用先を書かないといけないので正直に教えてください！」と問い詰めてしまいました（笑）。「獄中で教誨師の先生に教わったことや、本で学んだことを思い出して書いた」とのことです。とても深い内容ですので、皆さんぜひ読んでくださいね！

また、最近の音声認識入力が進化しているとのことで、今月号のたより製作でも取り入れてみました。タイピングに慣れているので、タイピングでも音声入力でもスピードは同じくらいですが、手が疲れないのでとても良いです。認識の精度もかなり高いです！弱点は、刑務所用語（「同囚」など）が変換できないことくらいです（笑）。

今月号もお読みくださりありがとうございました！  
来月号もお楽しみに！

マザーハウスたより編集局

ご寄付ありがとうございます！

7月16日～8月15日の寄付金

合計：223,112 円

(内 愛のプリズム宣教基金：1,100 円)

## 行事予定

▼9 / 18 18:00～

中小企業同友会・多様性委員会にて、  
講演「人生を変える出会いの力」

▼9 / 22 14:00～

聖イグナチオ教会 岐部ホール 404 にて、  
対談「父親になって」  
(対談者：五十嵐弘志・当事者Eさん)

▼10 / 2 18:00～

龍谷大学 志心館にて、  
APS研究会 (in 京都)

▼10 / 3 18:00～

マリア・カフェにて、  
当事者ミーティング

▼10 / 5 14:00～

目黒更生保護女性会にて、  
講演「人生を変える出会いの力」

▼10 / 6 14:00～

聖イグナチオ教会 岐部ホール 404 にて、  
対談イベント開催の予定

▼10 / 13 14:00～

聖イグナチオ教会 主聖堂にて、  
「受刑者のためのミサ」

▼同日 ミサ後～

聖イグナチオ教会 ヨセフホールにて、  
「茶話会」

▼10 / 15 16:30～

大正大学にて、  
講演「人生を変える出会いの力」



## マリアコーヒー（ルワンダ・コーヒー）

＊製造から販売まで、元受刑者が携わっております。

FAX：03-6659-5270

メール：maria\_coffee@motherhouse-jp.org（QR →）

価格：粉200g または 豆200g …… 900円

カフェドリップ10g（1回分）… 100円



☆継続して購入・販売してくださっている皆さま（順不同）☆

カトリック茅ヶ崎教会／カトリック北仙台教会／カトリック所沢教会／カトリック中和田教会／カトリック布池教会／カトリック東山教会／カトリック浜松教会／カトリック新子安教会／カトリック菊名教会／カトリック碑文谷教会／カトリック東仙台教会／カトリック春日部教会／クリスト・ロア宣教修道女会／カトリック足利教会／カトリック神田教会／カトリック松戸教会／カトリック戸塚教会／カトリック桃山教会（平和環境部）／カトリック大分教会／カトリック西千葉教会／カトリック下井草教会／カトリック新潟教会／日本カトリック神学院／ドン・ボスコ社



☆ルワンダの祈り☆



ルワンダでは、1994年、フツ族によるツチ族の大虐殺がありました。史上稀に見る残虐な内戦によって、ルワンダの人々は心身ともに非常に深い傷を負います。

しかし内戦終了後、恨みや憎しみから、復讐が復讐を呼ぶ状況に陥りかねない中、ツチ族の人々は、復讐ではなく、和解と共生を選択しました。マリア・コーヒーは、この和解と共生の地から届けられた生豆を使用しております。

## 獄中POSTシリーズ

＊獄中ボランティアの方の絵画と文字を  
ポストカードなどに印刷する企画です。

FAX：03-6659-5270

メール：motherhouse.tayori@motherhouse-jp.org（QR →）

入手方法：会員の皆様や、ご寄付（5000円以上）くださった方々、

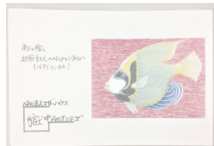
その他の機会等で感謝を込めて配布させていただく予定です。

（絵画＋言葉の組み合わせで、同じデザインは最大2枚のため、  
デザインはランダムです。）

＊デザインの絵画部分を選んで購入されたい方は、講演会や郵送にて  
販売しておりますので、お気軽にお問合せくださいませ。

（ポストカード／封筒は3枚で800円、便箋は30枚で800円）

ホームページ：https://npo-motherhouse.amebaownd.com/（QR →）



## マザーハウスたより9月号

2018年9月15日発行 発行責任者：五十嵐 弘志

〒130-0024 東京都墨田区菊川 1-16-17-102 NPO 法人マザーハウス



↑ 理事長 facebook ↑ たよりブログ ↑ MLPのメール ↑ オンラインショップ

## ラウレンシオ（便利屋業）

＊元受刑者の就労支援の一環として、不用品処理、遺品整理、

掃除などをさせていただきます。お見積もりは無料です。

TEL：080-4614-8508

FAX：03-6659-5270

メール：lawrance@motherhouse-jp.org（QR →）



## 古本募金（きしゃぽん）

＊書籍やDVDを下記送り先にご寄付いただくと、マザーハウスに還元されます。

送り先：〒358-0053 埼玉県入間市仏子 916

（マザーハウス事務所に送らないようお気を付けください）

TEL：0120-29-7000

## Webコンサルティング

＊WEB解析士マスターの資格を持つ当事者スタッフが、サイト制作から解析、  
マーケティングまで一貫したコンサルティングをいたします。

メール：sepi@websepi.com（QR 右→）

ホームページ：http://websepi.co.jp/（QR 左→）



ホームページ ↑ メール ↑

## カウンセリング

＊当事者やご家族の方を対象に、当事者スタッフが、実務に役立つ専門的  
なカウンセリングを行います。

メール：iwazakifuusui@gmail.com（QR →）

価格：30分5000円より

ホームページ：http://profile.ameba.jp/fengshui0708/（QR →）



## お問合せ

いつも本当にありがとうございます。随時ボランティアの方を募集しております。

TEL：03-6659-5260

メール：info@motherhouse-jp.org（QR →）

ホームページ：「NPO マザーハウス」でご検索ください。（QR →）



☆ご支援☆

口座名：特定非営利活動法人 マザーハウス（トクヒ）マザーハウス

郵便振替口座：00170-0-586722

みずほ銀行：新宿支店 普通口座 2376980

正会員：一口5000円（年会費） 【獄POSミニセットをプレゼント】

賛助会員：一口3000円から 【獄POSポストカードを1枚プレゼント】

社会復帰支援：ご寄付 【5000円以上で獄POSミニセットをプレゼント】

☆洋服等の物資の送付先：〒348-0061 埼玉県羽生市稲子 36-5

（担当者：江口 TEL：080-4057-2518）